



ASCON科学者委員会
機能性表示食品最終評価報告(2023年上期)
～届出者による自己評価成績の概要について～

2023年7月6日

ASCON科学者委員会 事務局長

山崎 毅

Takeshi Yamasaki, DVM, Ph.D.

<http://ascon.bz/>

最終段階としての「企業の自己評価」



- 現在でも届出資料は消費者庁がウェブで公開し、誰でも見ることができるが、これは専門家以外の人を読んでも理解が困難である。他方、委員会の様式に沿って行った自己評価結果は簡単な一覧表であり、重要項目を容易に判断できて、意見も述べやすい。
- 当委員会は、機能性表示食品評価活動の最終段階として、昨年3月より届出者にASCON基準による自己評価成績をご提出いただき、7月と12月に評価成績をウェブサイト公開した：<http://ascon.bz/archives/932> <http://ascon.bz/archives/972>
- 機能性エビデンスの自己評価成績を公開した製品は、消費者の信頼が増して商品選択の参考になっているので、届出企業にとってもメリットがある。逆に自己評価成績の公開を控えた製品は、「脆弱な科学的根拠がゆえに公開できないのか」と、きびしい消費者市民の目にさらされることとなる。優良企業ならば「説明責任」を果たすはずだ。
- 最終段階の企業の自己評価への進化が機能性表示食品全体の信頼度の向上と消費者の支持につながることを強く願っている。
- なお、臨床論文が科学的根拠として採用できるかどうかのポイントとして、ASCON科学者委員会では用量適合性を自己評価基準に組み込んでいる。最近消費者庁が懸念を示した科学的妥当性についてもカバーしていることをご留意いただきたい。
- 昨年度に実施していた「社会による評価」の受付を今回は中止したが、企業による自己評価成績に対する一般からのご意見を受け付けないという意味ではない。本評価判定成績へのご意見は事務局までご連絡ください➡ ascon.scientist@gmail.com
- ASCON科学者委員会は今後再編されます：<http://ascon.bz/archives/988>

ASCON科学者委員会評価基準		評価判定 (機能性表示数)
A	有効性について十分な科学的根拠がある (5報以上のRCT論文やシステマティックレビューで有効の判定がある場合、最終製品でのRCTが2報以上の場合)	186
B	有効性についてかなりの科学的根拠がある (RCT論文が2報以上あり、有効の判定が多数の場合、あるいは最終製品でのRCTが1報の場合)	325
C	有効性についてある程度の科学的根拠がある (RCT論文が1報のみ、あるいは2報以上で有効と無効が拮抗する場合)	257
保留	科学者委員会の評価基準では、科学的根拠に達するための追加資料/説明が必要と自動判定された場合に「保留」とする。届出者による総評コメントは製品評価一覧表をご参照のこと。	48

- ・ASCON基準適合率:768/816(94%) 届出情報照会呼応企業:73社/476社(15%)
- ・評価実施率(対象は全製品) 567/7001(8%)

* 届出者が報告した機能性表示評価成績一覧表はASCONホームページをご参照のこと。